

<スライド 講師紹介>

広場を中心に变化してきた 札幌駅前通地区の まちづくり

札幌駅前通まちづくり株式会社
取締役統括マネージャー
内川 亜紀

(司会)

それでは、札幌駅前通まちづくり株式会社 取締役統括マネージャー 内川亜紀様よりお話をいただきます。本日は「広場を中心に变化してきた札幌駅前通地区のまちづくり」でございます。それでは、どうぞよろしく願いいたします。

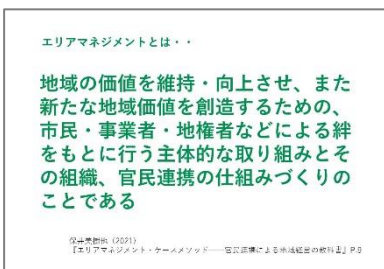
<スライド 1枚目>



みなさま、こんにちは。札幌駅前通まちづくり株式会社の内川と申します。

本日は「広場を中心に变化してきた札幌駅前通地区のまちづくり」ということで、私たちの札幌駅前通まちづくり株式会社は、まちづくりを専門に実施する会社ですが、地域がみんなで作ってきた会社で、広場を運営する。という取組をしていますので、そちらの事例についてお話しさせていただきたいと思えます。

<スライド 2枚目>



今日お題になっていますが、エリアマネジメントという言葉があると思えます。いろんな説がありますが、これが1番わかりやすいかなと思えます。

「地域の価値を維持・向上させ、また新たな地域価値を創造するための、市民・事業者・地権者などによる絆をもとに行う主体的な取り組みとその組織、官民連携の仕組みづくりのことである」と書いています。

今まさに、真駒内の駅前、これからこういった仕組みを作っていくところになる

ここは今でも、一応、道路という位置付けになっていて、歩行者が通行できる道路空間になっていますけれども、大正14年の写真を出しましたが、札幌の中で1番最初に舗装された道路ということで、道路の歴史も大切にしたい。ということで、今でも道路という位置付けになっています。

<スライド 6枚目>



なので、今から12年前は、このように元々車道だった空間が広場化していったという、流れになっています。

<スライド 7枚目>



この空間を作っていくことにあたって、1番最初に社会実験をしたのが2004年ということなので、今から20年前にこういったまちを動かしていく取組がどんどん始まっていった。ということですが、最初は、そもそもここを広場にした時に人が賑わって、憩ってくれるのか。というのが1回目。

私たちは、2回目からの社会実験に関わっていますけれども、やっぱり、札幌、北海道という土地であるが故に、ちょっと外に出づらい環境となってしまう中で、冬でも雪を利用して、冬期の空間活用ができないか。ということを検証しました。

3回目は、イベントばかりというわけにもいかないのです、日常的にこの空間どうしたら滞留していただけるだろうか。

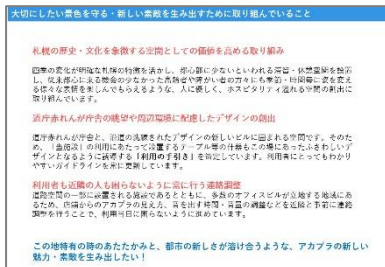
真駒内に今回作られる滞留空間というか、広場空間っていうのも、きっとまさにこういった空間を目指されているのかな。と思うのですが、こういったものの検証を進めてきました。

<スライド 8枚目>



私たち1番何を大切にしているか。と言いますと、この「新しい素敵をつくる」って呼んでいますけれども、この景色をやっぱり大切にしていきたい。イベントばかりやるのではなくて、こうやって日常的に憩える空間をまず大切にしていきたいと思っています。

<スライド 9枚目>



なので、そのためにも大切にしたい景色を守っていきたい。そして、そこで何か新しい素敵が生まれてほしい。というふうにキャッチコピーにしていますけど、その新しい素敵を生み出すために取り組んでいることが一応3点ありまして。

まず1つ目が、赤レンガ庁舎が見える空間だということもあって、札幌の歴史や文化を象徴する空間として価値を高めていきたい。その景色を楽しんだりするというのも、滞留、休憩空間を設置して、なかなか街中に出てきた時にもゆっくり過ごせる空間というのは都心部には少ないので、その季節、時間ごとに姿を変える表情なんかも楽しんでもらえるような場をつくっていきたい。と考えています。

一方、赤レンガ庁舎前の通ったあの景色。すどーんと通った景色を守りたい。という思いがあったので、この景色を守るためにやっぱり、このイベント空間を使ってくれる人にもその価値を一緒になって認識してほしいし、一緒に景色を作り出してほしいと思っているので、その場にあったような、この景色を守るためのデザインとなるように誘導して、利用の手引きというのでも作り込んでいます。

この手引きも1度作って終わりではなくて、毎年毎年ちょっと気になる点だとか、もうちょっとこのように書き込んだ方が配慮してくれるのではないか。ということは更新をしています。

もうひとつ、1番大事なことですけど、利用者も近隣のみなさんも困らないように常に行う連絡調整って、みなさんも近隣のみなさんと何かをやる時は、調整というのは付き物なんじゃないかな。と思いますけれども、特にこのエリアに関して言うと、

多数のオフィスビルがあり、商業施設もいくつもあるということで、商業施設の中からアカプラを見たときの見え方だとか、今だと隣に結婚式場とかがあるので、この結婚式場で結婚式をやっている時間帯とこちら側のイベントがバッティングしないようにだとか、そういった小さなことですけれども、お互いのイベントだとかお互いの事業がバッティングしないように。というのを事前に連絡調整することによって、みんなが利用当日に困らないように、まちづくり会社がハブになりながら進んでいます。

<スライド 10枚目>



これが春夏秋冬の様子ですけど、季節折々の変化が楽しめるアカプラ。ということで、冬の景色でいうと、保育園児の遊び場が街中にちょっと少ない。ということもあり、ここで雪合戦をしたりだとか、という使われ方もされ始めています。

<スライド 11枚目>



これは日常の景色で、コロナ禍になってから始めたものですが、このワーカーさんが外で過ごすということを少しでも楽しんでほしい。ということでキッチンカーの設置を始めましたけど、ただキッチンカーを呼んでくるのではなくて、このキッチンカーの出店のみなさまにも、このロケーションを守っていただくために、一緒に景色を作り出してくれる。だとか、一緒に価値を生み出してくれる。そういうことを出店者のみなさまにご協力いただいています。

<スライド 12枚目>



景色ですけど、やっぱり街中で、こういうふうに広大で遊べる空間というのが大通公園も確かにありますけど、より札幌駅に近いという点でいうと、このようにみんながちょっと思い思いに過ごせるというのも大切なんじゃないかな。と思っています。

<スライド 13枚目>



これはスケートリンクですね。

<スライド 14枚目>



これは、さっき言ったキッチンカーの取組ですけれども、北海道のキッチンカーの出店者さんってどちらかというと今まではイベントに出る。という方がすごく多かったのですけれども、コロナ禍になってイベントがなくなってしまい、その方々の活動場所がなくなってしまった。というのが2020年頃増えていました。

ということで、キッチンカーの方々への販売支援というのも目的で、中に閉じこもってないで、外の空気が良いところで、休憩してもらえる場を日常的に提供しよう。ということでこちらの取組を始めました。

キッチンカーの皆さんも色々工夫を凝らしてくれていて、その時々によっては、お花屋さんが出店してくれることもありますし、来てもらうためにInstagramなどでとにかくたくさん情報発信をお互いにし合いながらここを盛り上げていこう。みたいなことをやっているのでも、管理している自分たちだけが頑張るのではなくて、一緒に

やってくれる人が共に仲間になってくれて事を動かしている。そういったことが色々広場の運営に関しては大事ではないかな。と思っています。

<スライド 15枚目>



より地域が連携して魅力、価値を高めていこう。という取組として、札幌駅前通地区活性化委員会という団体がこのエリアにはありまして、元々はさっきの札幌市北3条広場の整備に向けた社会実験を企画、検討するために設立し、みんなが手を取り合って進めていこう。ということで組織を作りました。

これには委員のみなさんや道路の許可を出してくれる警察だったり、そういった方々にも入ってもらって、地域一丸となってこのイベントを盛り上げていきたい。このエリアの地域価値を高めていきたい。ということで進めていまして、今はこの6つの事業を主にやっていますけれども、最初はアカプラだけで始まっていましたが、アカプラ以外にも札幌駅の南口の広場のところで、今だとイルミネーションなんかもやっているとありますが、そういうことも、アカプラから徐々に広がっていったり、生まれてきた。という取組になっています。

今では参画してくれる企業のみなさんも少しずつではありますが、増えてきている状況です。

<スライド 16枚目>



これが「サッポロフラワーカーペット」という取組だったり

<スライド 17枚目>



「さっぽろ八月祭」という取組ですけど、いずれにしても、この赤れんが庁舎が駅前通からちゃんと見えるように。ということ意識しながら、空間を使いますし、地域の人だけではなくて、市民のみなさまもこの景色を一緒に作り出していく、そういった意味も込めながら、私たちの主催事業は運営しているところです。

<スライド 18枚目>



「多様な主体がつながり、持続的に取組を重ねる景観づくり」ということで、事例をご紹介しますが、2014年のアカプラのオープニング記念で始まった「サッポロフラワーカーペット」についてお話ししたいと思います。

こちらのフラワーカーペットというのは、元々私たちが企画をしたというよりは、札幌市の方で留学生と札幌の大学生と一緒にまちづくりの企画を検討する。というワークショップを開催されていたのですけれども、その中で、たくさんの方が集まってくれる仕組みを作りたい。ということで、当初は大通公園でこのフラワーカーペットという取組をやりたい。というお話がありました。

ベルギーのフラワーカーペットはすごく有名ですけれども、それを札幌版でやってみてはどうか。という学生の提案からこちらの事業は始まりました。

せっかくなので、たくさんの方の市民のみなさまにご参加いただきたいということで当初はボランティア300人からスタートしていますけれども、今はボランティア500人以上の方にご参画いただいて運営をしています。

目的は4点ありますけれども、イベントってそれを楽しみに行くという方も多と思いますけど、市民参加型で、みんなで作り込むとなると自分が関わる余地が高まれば高まるほど、より自分事にしてもらいやすい。という特徴があると思ったので、パブリックアートをみんなで作っていくということ。花の景色を発信していくこと。北海道産の花を使っているということもあって、花の産業の振興にも繋げていきたい。という目的でこの取組を始めていまして、地道に活動を進めていたところ、札幌市の

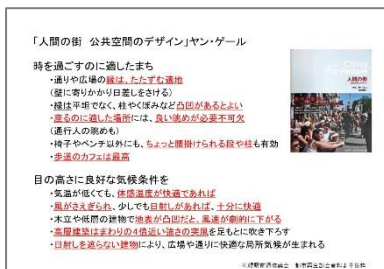
「景観の種」に登録していただくことができまして、そうやって活動を地道につなげていくことで、地域や市民の誇れる資源が出来上がってきたのではないかな。と思っています。

<スライド 19枚目>



最後になりますけれども、この日常的な空間で、日陰の部分とひなたの部分って全人入りの入り込み方が違うというのが写真で見ていただくとわかると思いますけど。

<スライド 20枚目>



これから空間も作られていくという中で、ヤン・ゲールという都市デザイン、ヒューマンスケールを大切にしながら都市のデザインを進めていくデンマークの方がいらっしゃるけれども、このヤン・ゲールの著書に書いてある「時を過ごすのに適したまち」というのが、例えば「通りや広場の縁は、たたずむ適地」さっきのアカプラのところでいくと、隅の部分にみんな座って過ごされている。というところ。

あとは「座るのに適した場所には、良い眺めが必要不可欠」ということで、多分、真駒内のところも色々山が見えてきたりだとか、そういった良い眺めというのがどんどん生まれてくると思います。

それはただの自然の眺めだけではなくて、通行人が色々過ごしていること。そういったのもひとつ眺めになってくるのではないかなと思っていて、「街の主演は人」と書いていますけれども、きっと今回こういう広場が生まれてくるときに、人の動きだとか、人をどう巻き込んでいくのか。という仕組みが、すごく大切になるのではないかな。と思ってしまして、一例としてご紹介させていただきました。

今回アカプラの事例をお話ししましたがけれども、アカプラも最初から全部うまくいってるわけではなくて、いろんなテストを繰り返しながらやってくということで、真駒内はこれから整備まであともうちょっと時間ある。ということなので、作り上げていく時の仕組みが、地域のみなさんがより参画しやすい仕組みであれば良いのかな。

と思っております。

以上で終わりにしたいと思います。
ありがとうございました。